

に

認知や情報処理の仕方に

異なるタイプがある

けいじ

継次処理タイプ



耳からの情報入力に強い傾向にあり、目の前のことから一つずつ確実に処理していくタイプ

どうじ

同時処理タイプ



目からの情報入力に強い傾向にあり、まず全体を見てから細部のつながりを見出すタイプ

このように大きく2つのタイプがあり、どちらもバランスよく使いながら処理している人や、どちらかを優先的に使いながら処理している人もいます。

(※ 発達障害の生徒は、どちらか偏って処理している場合が多く見られます。)